



・龍山寺ガイドマップ・



—— 正殿の神様 ——

- ① 観世音菩薩 ④ 韋駄護法
- ② 文殊菩薩 ⑤ 伽藍護法
- ③ 普賢菩薩 ⑥ 十八羅漢

—— 後殿の神様 ——

- ⑦ 大魁星君 ⑪ 福德正神 ⑫ 城隍爺 ⑬ 龍爺 ⑭ 水仙尊王 ⑮ 太陽星君 ⑯ 三官大帝 ⑰ 閔聖帝君 ⑱ 地藏王菩薩 ⑳ 月老神君 ㉑ 華佗仙師



現在の位置

財団法人台北市艋舺龍山寺



屋根の剪貼

ガラスの断片を使用し、職人の張添発により制作された飛龍剪貼（陶器などの小さな断片を作成し貼り付けていく建築装飾技法）装飾が太陽の光の下でキラキラと輝き、その題材も豊富で多様です。

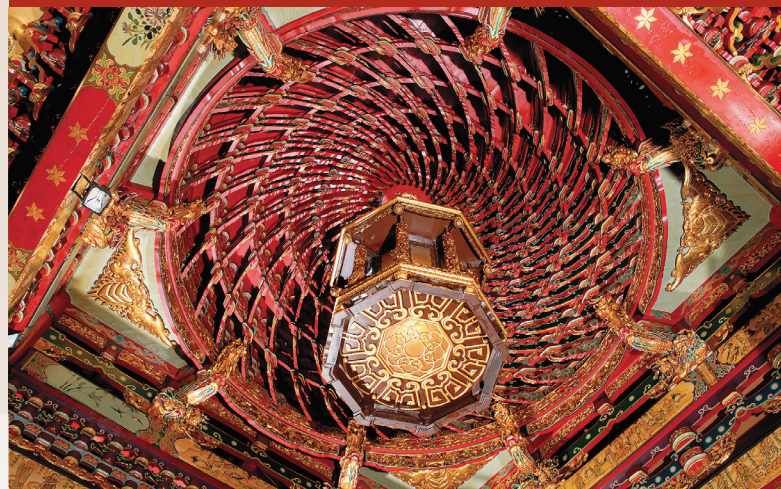


御路

寺院の建築において御路は神仏専用の道であり、一説には古代皇帝の車両専用の道であるとも言われています。1922年に彫られた龍山寺雲龍御路は、右に印鑑を、左に珠を持ち、鯉・海老・蟹が生気みなぎる様子をよりいっそう際立たせています。

中殿の藻井

仏教における輪廻転生の意を象徴する螺旋状の藻井（井げたのように木材を組み合わせ、斗拱により支えられ綿密に一段一段上へと組み上げられています。その技術は非常に巧みで素晴らしいものです。



天上聖母 — 16

「媽祖」、「天后」とも呼ばれる中華圏の代表的な海の神様です。その脇には守り役として、右手に戟という武器を持ち、左手を額にかざして遠くを眺める「千里眼」と、左手に月型の斧を持ち、右手を耳にかざして物音に耳を立てる「順風耳」の二神を従えています。



太陰星君 — 17

俗に「月娘」、「月神」と呼ばれ、美しさや慈しみなどの女性らしさを司る神様です。広寒宮という宮殿に「月兔」とともに住んでいるという伝説もあり、神秘的な色合いを帯びています。

註生娘娘 — 18

「送子娘娘」とも呼ばれ、安産・育児を司る神様です。子宝・安産・縁結び・妊婦の厄除けにご利益があります。



池頭夫人 — 19

安産にご利益のある神様。清の咸豊年間、艋舺一帯で漳州出身者と泉州出身者の武力争いが勃発。漳州派は7月のある日に夜襲を仕掛けますが、龍山寺の池の畔にいたある妊婦がそれを発見し、注意を与えたことから、泉州派は縄張りを守ることができたと言われています。泉州出身者はその恩に感謝し、女性を「池頭夫人」として祀るようになりました。



十二婆者 — 20

註生娘娘の従神で、「十二婆姐」とも呼ばれます。註生娘娘の支え役として、出産及び出産人数の決定、胎児の成長、出産直前の胎児の安全、胎児の健康、転生の手配、分娩中の母子の安全、性別、胎児の転生、胎児の着床、母子の健康と成長、出産後の幼児の世話などをそれぞれが担当しています。



三官大帝 — 21

俗に「三界公」と呼ばれ、天界・冥界・海の三つ世界の管理を担当する三名の神様。民間では、古代の堯・舜・禹の三人の名君を三官大帝と考えていますが、道教では、紫微・清虚・洞陰の三人の神様を三官大帝として祀っています。



関聖帝君 — 22

「五文昌」の一人。三国時代の蜀漢の武将、関羽。字は雲長。歴代皇帝から称号を追贈され、「武聖」という最高の敬称で崇められています。生前は金銭管理に長けていたため、商業界でも守り神として祀られています。



地藏王菩薩 — 23

大乘仏教における四大菩薩の一。「大地のように慈悲深く、深い知恵を秘めている」ことから、その名が付けました。弘願（衆生救済）の象徴とされ、「大願地藏王菩薩」とも呼ばれています。民間では多くの場合、道明と閔公をその従神として祀っています。



月老神君 — 24

「月下老人」、「月老」とも呼ばれ、縁結びを司る神様です。道教信仰では、月老は良縁を取り持つとされ、縁組み帳に書かれた縁のある未婚男女が、夫婦として結ばれるよう、赤い糸で二人をつなぎ合わせると言われています。



華佗仙師 — 25

字は元化、東漢から三国時代にかけての人物。経書と医術に精通し、特に薬の処方と鍼灸術に長けていたことから、神医として崇められるようになりました。現在では、多くの参拝者が治療成功・病氣平癒の祈願に訪れています。



艋舺龍山寺

国定史跡
艋舺龍山寺のご紹介

BANKA LUNGSHAN TEMPLE:
A brief introduction



財団法人台北市艋舺龍山寺

No. 211, Guangzhou St., Wanhua Dist., Taipei City

TEL | 02-2302-5162 Opening Hours | 06:00 - 22:00



艋舺

は日本統治時代の改正制度において、日本語で同じ発音の「萬華」と書き改められました。元は平埔族ケタガラン語の丸木舟を意味する「Banka」の音から取った名前で、当時の平埔族の人々は丸木舟にさつまいもなどの農作物を乗せて淡水河を移動し、漢人と取引をしたことからそうと呼ばれました。

その昔、漢人が台湾を開拓するために、船に乗って台湾海峡を渡る際、強い風や波、急な海流によって、船が転覆して命を落としてしまうこともありました。さらに、初期の台湾北部は未開発の瘴気（亜熱帯の高温多湿な山林中に生じる毒気）が発生する地域でもあり、過酷な環境にありました。清の康熙48年（1709年）、泉州三邑出身者（晉江、南安、惠安の三県を合わせて三邑と呼ぶ）と同安出身者が共同で結成した「陳賴章墾号」は、政府の許可を取得し、組織的に台北盆地を開拓。これを受け、三邑出身者は次々と海を渡り、この地にやってきました。彼らは神のご加護を祈願するため、故郷の廟から線香の灰が入ったお守りを持ってきました。艋舺地区で徐々に集落が形成すると、人々は清の乾隆3年（1738年）に福建省晉江県の安海龍山寺から観世音菩薩の分霊をお迎えし、共同出資で艋舺龍山寺を建立しました。

艋舺龍山寺は清の嘉慶20年（1815年）の大地震で修復が行われた後、清の同治6年（1867年）にも暴風雨が原因で再度修築。大正8年（1919年）には樑が白アリに害に遭ったため、当時の住職であった福智大師は資金を集めて修復を行い、自身も7千元あまりの一生の蓄えを率先して寄付し、今日の龍山寺の礎を築きました。第二次世界大戦中の民国34年（1945年）、正殿が空襲で全壊した際、観世音菩薩像だけは蓮華座に鎮座したまま、荘厳な姿を見せたと言われています。それまで、住民たちは空襲に見舞われると、菩薩様の蓮華座の下に避難する習慣がありましたが、この空襲の前夜、避難住民たちは蚊に耐えられずに次々と帰宅したため、誰も被害に遭いませんでした。住民たちは菩薩様のご加護のおかげだと信じ、それ以来、観世音菩薩は靈驗あらたかな神様として、各界から敬われるようになりました。

艋舺龍山寺の総面積は1800坪あまり、北を背にして南に面し、回字形に設計された伝統的な宮殿式の建築です。前殿は十一開間（間口を表す単位で2本の柱の間の空間を一開間という）で、三川殿・龍門庁・虎門庁から構成されています。屋根は正面から見ると三つの部分に別れ、傾斜する四つの面に八つの跳ね上がった角を持つ重層入母屋式設計を採用し、幅と高さの見事な対比によって、中央が高く、両側が低いという力強い外観を作り出しています。三川殿の前には台湾でも珍しい銅製製の蟠龍柱が一對あり、正面

銅龍柱

台湾で唯一の銅鑄性の龍柱で、三川殿正面の入り口に位置します。1920年中国福建省廈門の剪花（台湾伝統建築に見られる装飾技巧）職人の洪坤福により彫塑され、台北鉄工所の李祿星により鑄造されて完成しました。龍の身体がはっきりと浮かび上がった柱には封神演義（中国明時代に書かれた神怪小説）の人物が彫刻され、当時の職人の技術の精巧さがはっきりと見て取れます。

の壁には石彫の欄間が嵌め込まれています。使用されている石は泉州白石と青斗石および観音山石の三種類で、彫刻されている情景は多くが三国志演義と封神演義をモチーフとしています。

仏教の代表的な諸仏、菩薩を祀る正殿は、屋根が二層の入母屋式設計で、四方の走馬廊は合計四十二本の柱で構成され、殿外の壁には著名な書道家の石刻作品が多く見られます。殿内にある螺旋状の藻井（井げたように木材を組み合わせて振られた天井）には、釘も金属も使われておらず、全て斗組（はめ込み）の技術によって構成されています。後殿の屋根も二層の入母屋式設計で、両翼は単層の硬山式。屋根の棟には福祿寿の泥塑が配置されています。左右の護龍（両側の渡り廊下の部分）にはそれぞれ鐘樓と鼓樓が配置され、明け方には鐘の音、暮れには太鼓が響きます。屋根は轆轤式の六角形で、その独特な建築様式は、台湾でも初めてのものです。龍山寺全体の屋根の棟と反り返った軒先には、龍や鳳凰、麒麟などの縁起物が剪黏（陶器の小さな断片を作成し貼り付けていく建築装飾技法）と交趾焼を用いて装飾されており、その美しい色彩は、台湾の剪黏芸術の真髄であると言えます。

艋舺龍山寺は民国107年（2018年）に国定史跡に昇格しました、台北における重要な信仰の中心であり、古跡名勝でもある艋舺龍山寺は、古跡の保護を強化するほかにも、旧暦正月の灯籠展示、四月の灌仏会、民国102年（2013年）に無形文化財として登録された盂蘭盆勝会など、伝統祭典や民俗イベントを毎年定期的に開催しています。同時に、各大学や専門学校、及び経済的に困難のある学生向けの奨学金の定期的な支給や、冬季の援助活動、非常時の救助、消防車・各種消防機材・リフト付きバスの寄贈などを不定期に行っています。

民国94年（2005年）には板橋文化路に文化広場ビルを建設し、そこで仏教学講座、各種芸術文化活動、社会教育研修クラスなどを開催し、季刊誌や農民曆（旧暦）の出版を行っています。同時に、公益慈善事業にも取り組み続け、宗教の教えを世間に広め、人々に利益を与える役割をしっかりと果たすことで、人の心を浄化し、大衆の福祉を目指します。

鐘鼓楼

中殿と共に輝き映える鐘鼓楼は左右の護龍（両側の渡り廊下の部分）のつきあたりに位置します。六角形の楼閣には三層の軒があり、最も低層は回廊とその柱をとり囲んでいます。その機能は「明け方の鐘と夕暮れの太鼓」以外にも時報として、また儀式を行う際の礼器としても用いられます。鐘樓内部には鐘が掛けられており、それは清時代の同治4年に製造されたもので、龍山寺の悠久の歴史を見つけた証人でもあります。

正殿の神様¹、後殿の神様⁷、²⁵

観世音菩薩

俗に「観音仏祖」や「観音さま」と呼ばれ、阿弥陀如来、大勢至菩薩とともに、大乘仏教の「阿弥陀三尊」と呼ばれています。第二次世界大戦中、正殿が砲撃を受けて全壊した際、観音菩薩像だけが蓮華座の上に無事に鎮座していたから、信徒たちから「靈驗あらたかな仏様」と呼ばれています。

文殊菩薩

大乘仏教の四大菩薩の一人で、梵名を「マञジュシリー」といいます。知恵の象徴で、「大智文殊菩薩」とも呼ばれています。

普賢菩薩

大乘仏教の四大菩薩の一人で、梵名を「サマンタパドラ」といいます。理法の象徴で、「大行普賢菩薩」とも呼ばれています。

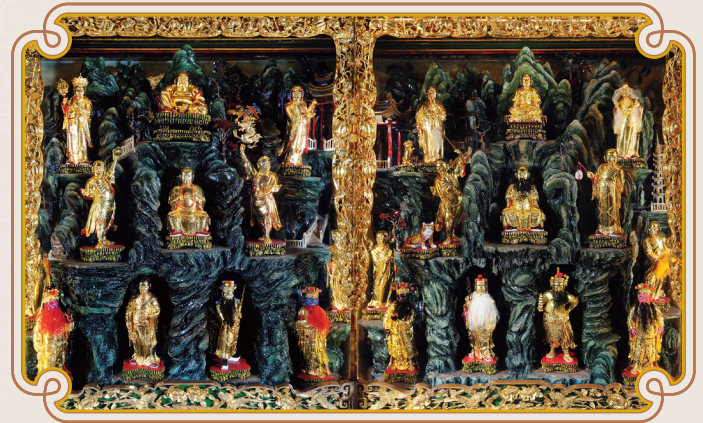
韋駄護法

寺院の守護神。別名「韋駄天」とも呼ばれ、バラモン教の天神と伝えられています。一説では、仏教四天王下の三十二将を取りまとめる長であるとも言われています。



十八羅漢

「十八尊者」とも呼ばれる釈迦牟尼仏の弟子。元は十六人でしたが、仏教が東伝した後、十八人に増加。仏の教えに従って四聖諦を学び、輪廻転生から離脱し涅槃に達した聖者で、そのイメージは各地の寺院や廟によって少しずつ異なります。龍山寺では、十八羅漢、山神、土地神、四海龍王と一緒に祀っています。



大魁星君

「文魁夫子」、「魁星」とも呼ばれています。魁星とは北斗七星のうち、柄杓の器の部分を形作る一つ目から四つ目の星（天樞、天璇、天璣、天權）を指しています。道教では、魁星（奎星とも）は「曲がり具合が文字に似ている」ことから、学問運を司る神様だと考えられています。



馬爺

文昌帝君の「禄馬」と呼ばれる愛馬で、出世を象徴する神様です。仕事成就、昇格昇進にご利益があります。



福德正神

土地の管理を行う神様で、通称「土地公」と呼ばれています。伝統文化では、土地神を祀ることは、大地への崇拝を表していましたが、現在では、幸福・金運・平安・豊作などを祈願することが多くなっています。



文昌帝君

「梓潼帝君」とも呼ばれ、この世の文章・学問・出世を司る神様です。道教信仰では、関聖帝君、大魁星君、朱熹、呂洞賓とともに、「五文昌」と呼ばれています。



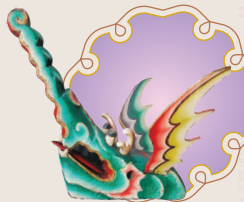
紫陽夫子

福建に「紫陽書室」を設立し、朱子学の学説を完成させたことで知られる宋時代の儒学者、朱熹。一般の書院では主神として祀られています。



城隍爺

城壁と堀に囲まれた城郭都市の守り神。その前身は水庸神で、水（堀）庸（城壁）を祀る古代祭祀に由来しています。善悪と賞罰の判断を司る冥界の地方官吏です。



水仙尊王

中華圏における海神の一人で、海運・貿易業者の間で信仰を集めています。各地で祀られている水仙尊王には、それぞれ違いがあります。本寺院では治水に長けた「禹」を主神として祀り、左右に二人の侍従を配していますが、水仙廟では伍子胥、屈原、李白、王勃の四人を從神として祀っています。



龍爺

古代の竜神崇拝と海神信仰に由来しています。天候を支配する能力を持ち、漁師から広く信仰を集めるほか、農民の間では祈雨の神様としても親しまれています。



太陽星君

「太陽公」、「日神」とも呼ばれ、光で大地を照らし、人々に恵みをもたらす自然崇拝の神様です。四季の移り変わりを支配します。

